

お茶の水女子大学博士課程リーディングプログラム 「キックオフシンポジウム」実施報告書（抜粋）

日時 平成 26 年 3 月 3 日（月）13 時～17 時 10 分

場所 お茶の水女子大学 共通講義棟 2 号館 201 教室

平成 26 年 3 月 31 日

お茶の水女子大学 リーディング大学院推進センター



目次

1	概要	2
2	実施内容	3
2-1)	プログラム	3
2-2)	会場	4
2-3)	来場者	4
2-4)	内容各論	4
2-5)	記録	6
2-6)	付録	6
2-6-1)	キックオフシンポジウム（テープ起こし）	7
	「ダイバーシティ社会を牽引する博士人材とは」	7
	第1部	7
	開会挨拶	8
	来賓挨拶	10
	連携協定調印式	11
	プログラム紹介	12
	基調講演	14
	「ダイバーシティ社会を牽引する博士人材とは」	14
	「真のグローバルリーダーへの成長には」	21
	「ダイバーシティ社会を牽引する博士人材とは」	27
	第2部	34
	パネルディスカッション	35
	ショートトーク	52
	閉会挨拶	62
2-6-2)	スタッフによる写真撮影（会場風景）	63
2-6-3)	アンケート集計	65

1 概要

1) 背景と事業上の位置づけ

「博士課程教育リーディングプログラム」は、産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進する事業として、平成23年度より開始された。本学では、平成25年に「『みがかずば』の精神に基づきイノベーションを創出し続ける理工系グローバルリーダーの育成」が採択され、理工系分野の確固たる基礎力と、実社会に置ける研究開発のイノベーション、ならびに異分野協働におけるリーダーシップを持つ女性博士人材の育成を目指す。

本キックオフシンポジウムの目的は、本プログラムを開始するにあたり、産学官有識者による基調講演、本学と他大学の取組み紹介、本プログラムに採用された院生による「PBTS (Project Based Team Study) =効果的なプロジェクトとチームワーク研究による実践的な達成を目指す教育手法」の課題の提案発表等を通して、本プログラムの趣旨と方向性を確認し、これを世間に周知するものである。

2) 実施内容と結果の要約

シンポジウムは、2部構成とし、基調講演を主体とした第一部、有識者によるパネルディスカッション、ショートトーク、および履修生による発表を第二部とした。開催に先立ち、本学の羽入佐和子学長と文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室の猪股志野室長がスピーチを行った。続いて「国立大学法人お茶の水女子大学と大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構との連携・協力の推進に関する協定書」による調印式を行った。さらにプログラムコーディネーターの古川はづき教授が本プログラムの概要の発表を行った。

一般参加者の募集は、ホームページ等を通じ事前申し込み制とし、100名を超える参加があった。本学の海外協定校をはじめとする大学や研究機関に招待状を送った結果、3名を招聘した。国内外のプログラム協力者、履修学生も合わせ、最終的に14名の参加があり盛況であった。

シンポジウム終了後は、会場を移動し情報交換会を開催した。

参加申し込みのあった89名が参加し、交流を図った。

2 実施内容

2-1) プログラム

13:00 羽入佐和子学長挨拶 司会：高柳弘昭特任教授（リーディング大学院推進センター副センター長）

13:05 文部科学省来賓挨拶 猪股志野氏（高等教育局大学振興課大学改革推進室室長）

13:20 連携協定の調印式

13:30 プログラム紹介 プログラムコーディネーター：古川はづき教授

基調講演 「ダイバーシティー社会を牽引する博士人材とは」

13:45 鈴木厚人機構長（高エネルギー加速器研究機構）

14:10 内永ゆか子理事長（J-Win）

14:35 ロペス・レモン上席副社長（独 LANXESS 社）

15:00～15:20 休憩

第二部 15:20～17:10

15:20 パネルディスカッション「社会の即戦力となってイノベーションを起こし続ける理工系女性人材をいかに育成するか？」

モデレーター：古川はづき教授

パネリスト：

淡路敏之理事・副学長（教育担当）（京都大学）

木村剛教授（大阪大学）

佐藤勲教授（東京工業大学）

小林洋子氏（NTTコム チェオ株式会社代表取締役社長）

小西雅子氏（WWF ジャパン）

質疑応答

16:30 ショートトーク

平野未来氏（スパイシー・シナモン社CEO・本学卒業生）

Steven Hayward 氏（英国イースト・アングリア大学上席講師）

副専攻プログラム履修生（山下公子さん、水戸晶子さん）

17:10 閉会挨拶（河村哲也理事・副学長・プログラム責任者）

司会：高柳弘昭特任教授（リーディング大学院推進センター特任教授）

2-2) 会場

お茶の水女子大学 共通講義棟 2 号館 201 室

2-3) 来場者

お茶大	78 名
他大学	15 名
企業他	49 名
計	142 名

2-4) 内容各論

- ・古川はづき教授 「リーディングプログラムの紹介」

【基調講演】

- ・鈴木厚人機構長（高エネルギー加速器研究機構）
「ダイバーシティー社会を牽引する博士人材とは」

<講演要旨>

お茶の水女子大学が取り組む「イノベーションを創出し続ける理工系グローバルリーダーの育成」プロジェクトは、大学の新たなミッションを形成する意欲的なものであり、大いに成果が期待されます。

イノベーションの創出には、異分野や異文化の融合と産学官の連携の重要性が唱えられる一方で、技術の利活用のみならず、技術を深堀することを忘れてはいけないとの指摘があります。

このような背景の中で、時代を先取りするようなプログラムが提案され、プロジェクト協力研究機関として、学術的・技術的・人的資源を大いに活用できるよう努力する次第です。

講演では、基礎科学研究を遂行する機関の立場から、プロジェクトを見つめ、意見を述べたいと思います。

- ・内永ゆか子理事長（J-win）

「真のグローバルリーダーへの成長には」

<講演要旨>

今や IT やインターネットの出現で世界がとても小さくフラットになってきた時代。ビジネスの影響は瞬時に個人、個々の企業に影響を及ぼしている中で、これまでの単一的なモノカルチャーの思考形態による成功体験では、企業がグローバルで競争に勝ち抜くことは難しい。これからの成功のために、新し

いビジネスモデル変革には価値観の違う人達が過去の成功にとらわれず現実を直視して多様なアイデアを出すという挑戦が必要であり、そのためにはまさしく理工系人材の論理的思考力、抽象化能力、既存の価値観にとらわれない発想が不可欠である。

このようなスキルは多様化したグローバルにおける真のリーダーへと成長する際に求められるものである。

・ロペス・レモン上席副社長（LANXESS 社）

Keynote Lectures on:

“What is required for doctorate holders who lead the diverse society?”

<Abstract>

Presentation on LANXESS by Mr. Luis Lopez-Rejon, Senior Vice-President LANXESS Deutschland GmbH, Global Head of Business Unit Rubber Chemicals LANXESS is a global leader in specialty chemicals with a strong foothold, amongst others, in rubber and rubber technologies. Its business is truly global and it endeavors to provide answers to pressing questions of today and of future generations with regard to global trends, such as population development, energy and resource management, climate change, urbanization and mobility. Innovative and pioneering technologies from the chemical industry are a key to finding sustainable solutions already today. Besides managing effectively and continuously investing into research and development, LANXESS' success of bringing economically valuable solutions to the market lies in its people. Not only a comprehensive knowledge base and excellent scientific qualification are needed, also excellent communications skills and a high motivation to work with cross-cultural and cross-functional teams are indispensable for a globally active company. While applying state of the art R&D management practices, to which the presentation will give a very brief insight, LANXESS especially encourages people to think outside of the box and search for new and innovative solutions together.

【パネルディスカッション】

・淡路敏之理事・副学長（京都大学）

「多くのイノベーション人材を輩出した大学の教育担当副学長としての視点から、リーディングプログラムへの取り組み、人材育成の方法について」

・木村剛教授（大阪大学）

「リーディングプログラム「インタラクティブ物質科学・カデットプログラム」のコーディネーターの視点から、プログラムへの取り組み、人材育成の方法について」

・佐藤勲教授（東京工業大学）

「リーディングプログラム「グローバル教育院」のコーディネーターの視点からプログラムへの取り組み、人材育成の方法について」

- ・小林洋子氏（NTTコム チェオ株式会社代表取締役社長）

「経済界の動向・ニーズを踏まえ、企業経営者の視点から、人材育成目標およびその取り組みについて」

- ・小西雅子氏（WWF ジャパン）

「グローバルリーダーとしてのご経験、グローバル人材育成の観点から、必要な人材、採用の要件、育成の取り組みについて」

【ショートトーク】

- ・平野未来氏（スパイシー・シナモン社CEO・本学卒業生）

「帰国子女でもなく留学経験もない女子学生がグローバルに活躍する3つの方法」

- ・Steven Hayward(英国イースト・アングリア大学上席講師)

“Science Graduate Programmes at the University of East Anglia”

- ・リーディングプログラムの履修生（山下公子さん、水戸晶子さん）

「リーディングプログラムに対する抱負・期待」

2-5) 記録

- ・ 業者による動画撮影 （3時間）
- ・ スタッフによる写真撮影
- ・ 業者による音声録音（日英）、テープ起こし
（日本語、英語話者のみ英文もあり）

2-6) 付録

- ・ テープ起こしの word ファイル（日本語）（pp. 7-62）
- ・ スタッフによる写真撮影(会場風景)（pp. 63-64）
- ・ アンケート集計（pp. 65-67）

2-6-1)テープ起こし

内容については、リーディング大学院推進センターまでお問い合わせください

E-mail : leading-ocha@cc.ocha.ac.jp

2-6-2) スタッフによる写真撮影（会場風景）





2-6-3) アンケート集計

2014/3/3 キックオフシンポジウム アンケート集計結果

※回収数：64 人

1. 本日のシンポジウムは有意義でしたか。

(人)

非常に有意義	49
どちらかといえば有意義	14
有意義ではない	0

2. 本シンポジウムを何で知りましたか。（複数回答有）

お茶大 HP	10
本校からのメールによるお知らせ	26
本校からの封書によるお知らせ	8
ポスターや掲示板等	3
その他	18

3. 年代、職業

10 代	1
20～30 代	30
40～50 代	22
60 代～	6

学生	8
社会人	24
その他	5

自由記述欄	
20 ～ 30 代 学生	同じ大学の先輩である平野さんのお話が刺激的でした。
20 ～ 30 代	幅広い知識を持つことの重要性を再確認した。
	女性が社会に進出することで従来のやり方にとらわれないような環境になるかもしれないという可能性に気づかされた
40 ～ 50 代 その他	参加対象学生の皆さんにもっと聞いていただきたい内容でした
	女性パネリストのお二人のお話はいつも大変参考になります。
40 ～ 50 代 社会人	大いに期待しております。貴大学の学生は既に地域において信用、信頼がありますので一度玉鏡を割る勇気があるとなお素晴らしいかと思えます。
40 ～ 50 代 社会人	プログラムを通じて人材育成（△△育成とか）の方法論も開発し他大学、企業、あるいは地域社会などでも使える教材のような形でアウトプットしていただければと期待しています。
20 ～ 30 代 学生	企業側への希望がもっとあってもよかった。大学で育成した人材でどうあつかつて欲しいか。 企業研究所に入りたいか現場に入れて鍛えたいのか？
20 ～ 30 代 学生	主専攻の勉強を軸に、気をひきしめて本プログラムの履修を頑張っていきたい。
20 ～ 30 代 社会人	修了者（ポスドク）の再教育、授業があるとうれしいです。このプログラムがうらやましいです。
20 ～ 30 代	様々な分野、企業、関係者を巻き込んだプログラムだということが分かった。一方で大学内の環境と、社会の様相は随分異なるようで、このプログラムを通して、従来の型の博士課程の学生がどのように変化するか興味がある。
40 ～ 50 代 社会人	机上の空論にならないよう実践（成果に結びつく）的なプログラムなることを期待しています。
20 ～ 30 代 学生	パネルディスカッションが有意義でした。
20 ～ 30 代 社会人	是非次回のシンポジウムでは学生さんをメインにして頂くような企画を期待したい。
20 ～ 30 代	女性も、もっと自主性をもって社会に進出していくべきだと感じ、勇気をいただきました。ありがとうございました。
40 ～ 50 代	大変勉強になりました。
20 ～ 30 代 社会人	「mono culture と diversity を女性がつなぐ」、「文理融合ではなく文理共存」というキーワードは収穫でした。
40 ～ 50 代 教員	女性目線のプログラムの特色とむずかしさを感じることができて大変興味深かったです。
60 代～	期待は大きいです。博士人材育成の本筋だと思います。
20 ～ 30 代 社会人	グローバル人材やダイバーシティ、イノベーションという言葉が世にあふれていて、その言葉から何を期待すれば良いのか分からなくなってしまったが、このシンポジウムのお話を聞くうちに大分分かってきました。ありがとうございました

20 ～ 30 代 社会人	<p>様々な立場の方から色々な立ち位置・視点に基づいた興味深いお話を頂きました大変勉強になりました。</p> <p>交渉力と我儘、行動力と暴走の境界線を弁えた優秀な人材が育成されることをお祈りしております。</p> <p>最後に履修生お二人のお話をきて、非常に期待がもてました。</p>
40 ～ 50 代 社会人	<p>大学の視点、産業界の視点の最新のダイバーシティに対する考え方を拝聴でき参考になった。</p> <p>先進大学のリーディングプログラムの根底にある考え方を確認できたため今後のプログラム推進の参考にしたい。</p>
40 ～ 50 代	内永氏、小林氏、小西氏のお話は非常に魅力的で今後に生かせると思う。
40 ～ 50 代	大変有意義でした。
40 ～ 50 代	意欲的な取り組みに期待します。
20 ～ 30 代 学生	企業の目的は自社の利益を上げることになりがちであるが、それだけではなく、社会に利益を還元できるような人物の育成に力を注いで頂きたい。
20 ～ 30 代 社会人	<p>企業経験者ですが、大企業であればあるほど、博士卒の就職受入数は一気に多くならないと思います。また他大学でも同様のプログラムが進められています。その中で、博士卒を増やし、就職の難しいポストドクを進む促進剤のようなプログラムになっているような恐ろしさがあると思っています。会社に入れば PhD は必要と感じますが、PhD に就職して欲しいという企業は残念ながら少ないように感じます。しかしその社会を打ち破れるようなプログラムになるよう希望（期待）しています。</p>
20 ～ 30 代 社会人	<p>貴校の取り組み、また普段なかなかお聞きすることのできない方々の Presentation は非常に楽しく、とても有意義でした。今後、貴校のプログラムの一部で是非一緒させていただけることと、サポートさせて頂けることを楽しみにしております。</p>
40 ～ 50 代	とても興味深いお話でした。ありがとうございました。内永先生のお話はとてもためになりました。
20 ～ 30 代	PBTS への参画（企業、団体）、女性のデータサイエンティスト増加（ダイバーシティマネジメント）。